

第6章 キャリア形成支援部門

第1節 キャリア形成支援部門の概要

部門長：千葉真弓

メンバー：竹内幸江 松本淳子 有賀美恵子 高橋百合子 井本英津子 森野貴輝
村井ふみ 伊藤佑季 青木駿介 花岡秀樹（就職支援員） 中村康子（学生支援員）

1 所掌事項

- ① 教育・研究機会の提供および研究活動に係る支援
- ② 進学、転職などに係る相談および情報の提供
- ③ 大学ホームページ等を活用して情報交換の場の提供
- ④ その他、卒業生・修了生のキャリア形成支援に関する調査・研究

2 活動目標

本学で看護学を修めた卒業生・修了生が、その後も実践を通して大学との交流を継続できるように、キャリア形成支援部門が「魅力的な基地」づくりを目指す。

さらに、卒業生・修了生の新任期における職場定着や看護職としてのキャリア形成支援に取り組み、大学としての地域貢献の役割を果たしていく。

第2節 活動実績

1 部門会議

令和元年度の部門員は、千葉以下、竹内准教授、松本准教授、有賀准教授、高橋講師、井本講師、森野助教、村井助教、伊藤助手、青木助手の他、花岡就職支援員、中村学生支援員を含めて12名であった。『令和元年度卒業生あつまれ！』の企画を中心に活動を行った。会議の開催は、メールでの稟議を含めて4回であり、内容は以下のとおりである。

令和2年4月23日(木) Mail会議	1. 「令和元年度卒業生あつまれ！」企画の 9月開催中止決定 2. 「あつまれ企画」に代わる卒業生支援についての 検討
令和2年11月19日(木) ZOOM会議	1. あつまれ企画オンライン開催について 令和3年2月20日(土)14時～16時 ZOOMでのオンライン開催とした 2. 今年度卒業生へのアンケート 実施方法：GoogleFormsで配信、集計 実施時期：あつまれ企画と併せて実施 実施内容：あつまれ企画評価 近況報告 3. 次年度の活動方針 ・全卒業生を対象としたアンケートの実施について 郵送費の予算を確保する方針
令和3年2月17日(水) 10時～12時 ZOOM会議	1. 「令和元年度卒業生あつまれ！」プログラム確認 2. オンライン開催における役割分担の確認 3. オンライン開催にむけたシミュレーションと意見 交換
令和3年2月20日(土)	1. 令和元年度卒業生あつまれ！ オンライン開催 2. 次年度に向けた振り返り

2 活動成果

1) 卒後1年目の卒業生に対する支援

今年度当初、9月に開催予定であった「令和元年度卒業生あつまれ！」企画が新型コロナウイルス感染症対策のために一旦は中止とした。そのため、卒業生に対してHP上で中止の報告ならびに卒業生を対象とした相談窓口の紹介を行った。「卒業生あつまれ」企画をオンライン開催する方向で具体的な方法や開催時期を検討した。

(1) 「令和元年度卒業生あつまれ！」企画の実施

令和3年2月20日(土、14:00～16:00)にZOOMミーティングによるオンラインで

実施した。卒業生 86 名中 13 名（15%）教員は 18 名の参加であった。

プログラムを変更し、簡単な近況報告の後、自由に話をするセッションを 2 回設けた。1 回目は指定したグループでフリートーク、2 回目は話したいメンバーのいる部屋へ、自由に移動してのトークといった内容で実施した。

参加した卒業生は近況報告の中で、それぞれ日々努力しながら、少しずつできることが増えた、一年間仕事を継続できた、といった自身の成長を振り返っていた。フリートークではそれぞれのグループで卒業生、教員を交えて仕事やプライベートでの時間の過ごし方、思い出話といった内容の会話ができたようである。

学年顧問以外にも時間の都合をつけて参加した教員も多数おり、オンライン開催の効果と言える。一方で、卒業生は 13 名と少なかった。1 つには卒業生同士、在学中からのつながりの維持は SNS で行われていることや、ZOOM といったオンラインミーティングへの馴染みが薄かったこと、あるいはネット環境が十分でなかったことが考えられる。オンライン開催の場合の周知の仕方や参加方法の案内等を工夫する、開催時期を早めに設定するなど、参加者確保に向けた対策を検討する必要がある。

次年度は感染状況をみながら、オンラインあるいは対面での開催も視野に入れて企画を検討する。

(2) アンケート調査の実施

卒後 1 年目の卒業生、85 名を対象調査として実施した。

方法：「卒業生あつまれ！」企画に参加した卒業生 13 名へ Google Forms の URL を配信
その他の卒業生 72 名へはメールに添付して Google Forms を配信した。

目的：オンラインでのあつまれ企画に対する評価

卒業生の近況を把握し、今後のキャリア形成支援検討の資料とする。

調査内容：①職種・入職の動機 ②現在の職場についての感想

- ③入職してから困っていること ④職場決定に際し学部生に伝えたいこと
⑤キャリア形成支援部門の企画等への希望 ⑥近況報告などの 6 項目

結果：卒業生 3 名から回答を得た

- 1) 職種：看護師 2 名、保健師 1 名、
- 2) 入職の動機（複数回答）
 - ・地元である（3 名）
 - ・職場の雰囲気（1 名）
 - ・教育研修の充実（1 名）
 - ・福利厚生 of 充実（1 名）
 - ・教職員からの情報（1 名）
- 3) 現在の職場についての感想
 - ・満足している（2 名）
 - ・こんなものだろうと思っている（1 名）
- 4) 入職してから困っていることについて
 - ・困っていることは特にない（2 名）
 - ・困っていることがある（1 名） 内容：先輩が怖い
- 5) 職場決定に際し学部生に伝えたいこと（自由記載）

- ・インターンシップに参加したほうが良い (3名)
 - ・インターンシップでは、病院全体だけでなく職場の雰囲気や人間関係等まで見ておくと良い (1名)
 - ・インターンシップでは、職場の雰囲気だけでなく就職試験対策としても有用なので参加したほうが良い (1名)
 - ・実際に就職してみないとわからない(2名)
- 6) キャリア形成支援部門の企画等への要望など
- ・卒業生が集まる企画 (3名)
 - ・大学や駒ヶ根の様子を動画などで配信してもらいたい (1名)
- 7) 近況報告
- 3名からそれぞれの職場で慣れない環境や仕事内容に苦労しながらも1年間、継続することができたといった報告があった。

考 察：

今回は回答者数が極端に少なかった。あつまれ企画のオンライン開催と参加者以外の卒業生へは学生時代のメールアドレスを介したアンケート配信であったため、アクセス数が少なくなったと考えられる。

回答数が少ないため卒業生全体の傾向を反映しているとは言い難いが、回答の内容を概観すると、就職動機は「地元である」ことが多く、現在の職場にはある程度「満足」しており、困ったこととして「先輩看護師」との関係などを挙げており、例年の卒業生と似たような傾向にあるといえる。

2) 卒後2年目以降の卒業生に対する支援

本学の卒業生を対象に、キャリア形成の節目に卒業生が頼りにできる母校であることを願って、卒業生の進学や資格取得等の相談窓口を設置したことを、大学HPを通じて周知を図っている。しかしながら、令和2年度は相談がなかった。例年国家試験の再受験、大学院進学や資格取得に関する相談が数件寄せられていたが今年度の実績は0件であった。これについては、HPでの表示をわかりやすくする、アンケート調査等の際に相談サイトについてお知らせする等、周知方法の工夫を図っていく必要がある。

3 今後の活動

令和2年度卒業生の「卒業生あつまれ！」企画の開催を9月頃の開催方針で検討、準備する。

1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・卒業生の動向を把握するためのアンケート調査を同窓会の協力を得ながら実施する。
- ・卒業生に対する長期的な支援策（職場の悩み事相談、看護研究支援、進学相談、転職相談など）を視野に入れ、相談窓口への積極的なアクセスを促すために、各種の機会を通じて卒業生に相談窓口の周知を図る。
- ・早期離職者の情報を卒論ゼミ教員・学生委員会・同窓会等と共有し、支援方法を検討する。

2) 将来的な課題

- 本学同窓会と連携しながら、卒後1年目の卒業生に限定せず、卒業生がオンラインあるいは対面で参集して交流を深め情報を共有する機会等を検討する。